

令和 6 年能登半島地震 災害対応検証報告書

令和 7 年 3 月
高 岡 市

目 次

1	検証の概要等.....	1
1-1	検証の目的.....	1
1-2	検証の項目.....	1
1-3	検証方法.....	1
2	令和6年能登半島地震の概要	2
2-1	地震の概況.....	2
2-2	高岡市の被害状況	7
3	本市の対応	8
3-1	災害対策本部の設置等.....	8
3-2	避難所の開設状況.....	8
3-3	他自治体からの支援.....	9
3-4	各部局の主な対応	9
4	課題及び改善の方向性	11
4-1	住民の避難行動.....	11
4-2	避難所の開設・運営.....	16
4-3	災害対策本部の設置・運営.....	18
4-4	各課の災害対応.....	20
4-5	被災者支援.....	21

1 検証の概要等

1-1 検証の目的

令和6年1月1日の能登半島地震では、本市において観測史上初となる震度5強を観測し、その直後には津波警報が発表され、大規模な揺れと液状化現象の影響もあり、多くの住家や道路・上下水道の損傷等、当たり前の日常生活に甚大な被害をもたらした。

本市では、地震発生後、被害情報の把握、避難場所の開設・運営、災害危険箇所の応急対策を行った。

本検証では、住民の避難行動、避難所の開設・運営、本市の防災体制など災害対応における課題を整理し、改善の方向性について検討を行い、地域防災計画をはじめとする各種計画の見直しに反映するとともに、今後の災害時の対応力向上につなげることを目的とする。

1-2 検証の項目

「住民の避難行動」「避難所の開設・運営」「災害対策本部の設置・運営」「各課の災害対応」「被災者支援」の5項目。

1-3 検証方法

5つの検証項目ごとに以下のアンケートや意見、調査の結果から現状及び問題点を抽出し、課題の整理及び改善の方向性についての検討を行う。

(1) 高岡市連合自治会によるアンケート

高岡市連合自治会では、地域の防災体制や市との連携についての検証、見直しを目的として、市内各連合自治会を対象に、地震時の各地区の対応状況を把握するためのアンケート調査が実施された。

(2) 災害対応に従事した職員による振り返り

本市では、今回の災害対応業務の経験を今後の業務改善につなげるため、災害対応業務に従事した職員による振り返りを行った。

(3) 富山県による避難行動に係る人流データ調査及び県民アンケート

富山県では、津波警報発表時の避難行動の課題を明らかにし、避難計画見直し等の基礎データとして活用するため、人流データ（携帯電話のGPS等に基づき取得される位置情報）による住民避難行動の分析が実施された。

また、地震発生時の避難行動や県民の防災意識の変化等を把握し、災害対応の検証に活用するため、県内全域を対象とする県民アンケートが実施された。

2 令和6年能登半島地震の概要

2-1 地震の概況

石川県能登地方では、2018年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃からさらに活発になっていた。2023年5月5日にはM6.5の地震（最大震度6強）が発生し、以降、時間の経過とともに地震の発生数は減少していた。

このような中、2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震（最大震度7）が発生し、石川県輪島市及び志賀町で震度7を観測したほか、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測し、県内では、観測開始以来最大となる震度5強及び長周期地震動階級3を観測した。

この地震に伴い、16時12分に新潟県、富山県及び石川県に津波警報、北海道日本海沿岸南部から山口県にかけての日本海沿岸に津波注意報を発表した。

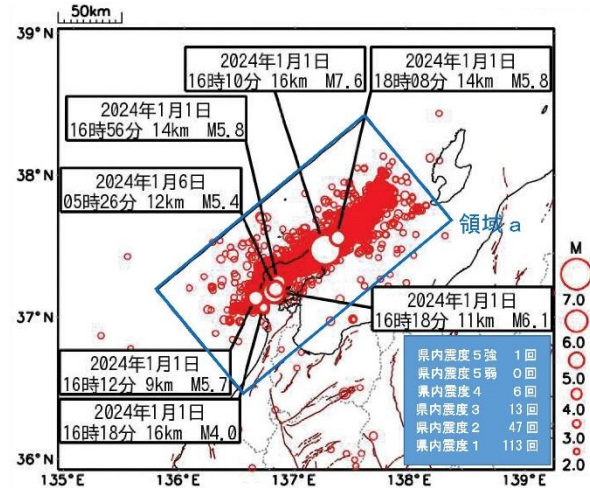
その後、16時22分に石川県能登を大津波警報に、山形県、福井県及び兵庫県北部を津波警報に切り替え、北海道太平洋沿岸西部、北海道日本海沿岸北部及び九州地方の日本海沿岸に津波注意報を発表した。富山検潮所（富山市）で、79cmの津波を観測した。その後の現地調査にて、射水市海竜新町で1.5m（遡上高）、朝日町宮崎漁港で1.4m（浸水高）の津波を推定した。

気象庁では、2024年1月1日に石川県能登地方で発生したM7.6の地震及び2020年12月以降の一連の地震活動について、その名称を「令和6年能登半島地震」と定めた。

震源要素等

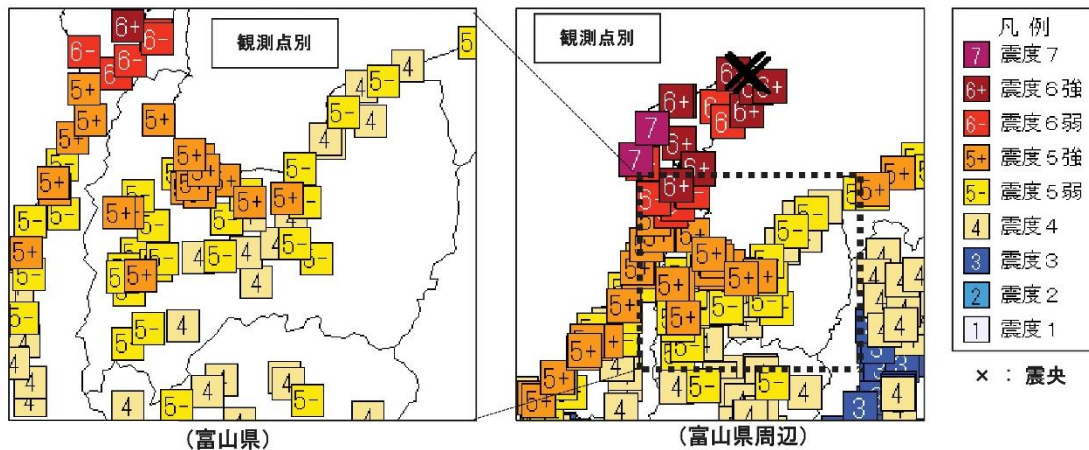
発生時刻 : 2024年1月1日16時10分
震央地名 : 石川県能登地方
規模 (M) : 7.6
最大震度 : 震度7

図表1 令和6年1月の富山県周辺の震央分布図 (M2.0以上、深さ0~30km)



(出典) 富山県の地震概況 「令和6年(2024年)1月」(富山地方気象台)

図表2 震度分布図 (1月1日16時10分 M7.6、深さ16km、最大震度7)



(出典) 富山県の地震概況 「令和6年(2024年)1月」(富山地方気象台)

図表 3 過去 1 年間に富山県で震度 1 以上を観測した地震の震度別回数表

年	2023年												2024年	合計
月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
震度 5 強												1	1	
震度 5 弱													0	
震度 4				2								6	8	
震度 3				1								13	14	
震度 2				4								47	51	
震度 1	1			3		1		1				115	121	
合計	1	0	0	10	0	1	0	1	0	0	0	182	195	

(出典) 富山県の地震概況 「令和 6 年 (2024 年) 1 月」 (富山地方気象台)

図表 4 津波警報等の発表状

発表日時 津波予報区	01 日 16 時 12 分	01 日 16 時 22 分	01 日 20 時 30 分	02 日 01 時 15 分	02 日 02 時 30 分	02 日 07 時 30 分	02 日 10 時 00 分
北海道太平洋沿岸西部		1 m	→	→	→	→	解除
北海道日本海沿岸北部		1 m	→	→	→	→	解除
北海道日本海沿岸南部	1 m	→	→	→	→	→	解除
青森県日本海沿岸	1 m	→	→	→	→	→	解除
秋田県	1 m	→	→	→	→	→	解除
山形県	1 m	3 m	→	1 m	→	→	解除
新潟県上中下越	3 m	→	→	1 m	→	→	解除
佐渡	3 m	→	→	1 m	→	→	解除
富山県	3 m	→	→	1 m	→	→	解除
石川県能登	3 m	5 m	3 m	1 m	→	→	解除
石川県加賀	3 m	→	→	1 m	→	→	解除
福井県	1 m	3 m	→	1 m	→	→	解除
京都府	1 m	→	→	→	→	→	解除
兵庫県北部	1 m	3 m	→	1 m	→	→	解除
鳥取県	1 m	→	→	→	→	→	解除
島根県出雲・石見	1 m	→	→	→	→	→	解除
隠岐	1 m	→	→	→	→	解除	
山口県日本海沿岸	1 m	→	→	→	→	解除	
福岡県日本海沿岸		1 m	→	→	解除		
佐賀県北部		1 m	→	→	解除		
佐岐・対馬		1 m	→	→	→	→	解除

(凡例)

津波警報 (大津波)

津波警報 (津波)

津波注意報

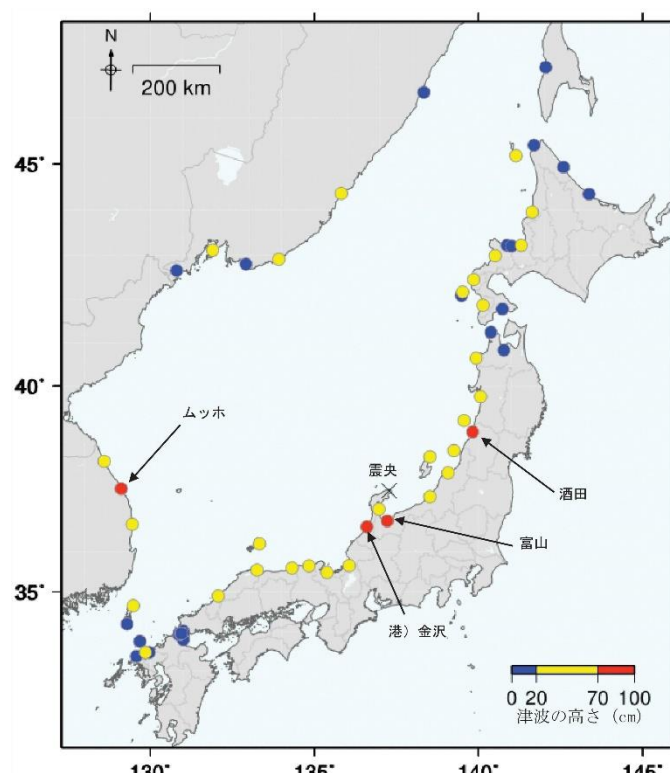
解除



表中に「津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報」で発表した津波の高さを示した。
なお、矢印 (→) は前回に発表した内容と同じであることを示す。

(出典) 災害時地震・津波報告 令和 6 年能登半島地震 (気象庁/令和 6 年 9 月)

図表5 津波を観測した地点



(出典) 災害時地震・津波報告 令和6年能登半島地震 (気象庁／令和6年9月)

図表6 津波観測状況

都道府県	観測地点名	第一波 到達時刻	最大波	
			到達時刻	高さ
富山県	富山	1日 16:13	1日 16:35	79cm
新潟県	柏崎市鯨波	1日 16:30	1日 16:36	37cm
	佐渡市鷺崎	1日 16:32	1日 19:21	33cm
石川県	七尾港	1日 16:37	1日 18:59	54cm
	金沢	1日 16:52	1日 19:09	80cm
福井県	敦賀湾	1日 16:34	1日 20:27	57cm

(出典) 災害時地震・津波報告 令和6年能登半島地震 (気象庁／令和6年9月) を基に作成

図表 7 津波による痕跡調査結果

都道府県	調査地点名	推定した津波の高さ	津波高の種類
新潟県	上越市柿崎漁港	2.9m	遡上高
新潟県	上越市船見公園	5.8m	遡上高
新潟県	上越市直江津海水浴場	4.5m	遡上高
新潟県	佐渡市羽茂港	3.8m	痕跡高
新潟県	佐渡市小木港	1.9m	痕跡高
富山県	朝日町宮崎漁港	1.4m	痕跡高
富山県	射水市海竜新町	1.5m	遡上高
石川県	珠洲市飯田港	4.3m	痕跡高
石川県	珠洲市鵜飼漁港	2.7m	痕跡高
石川県	珠洲市見附公園	2.9m	痕跡高
石川県	能登町恋路海岸	1.7m	遡上高
石川県	能登町松波漁港	3.1m	痕跡高
石川県	能登町内浦総合運動公園	4.0m	痕跡高
石川県	能登町白丸	4.7m	痕跡高
石川県	能登町九十九湾	2.2m	痕跡高
石川県	能登町宇出津港	1.3m	痕跡高
石川県	七尾市鵜浦漁港	1.8m	痕跡高
石川県	七尾市下佐々波漁港	2.2m	遡上高
石川県	輪島市舩倉島漁港	2.9m	痕跡高

※推定した津波の高さは速報値であり今後の精査により変更となる可能性があります。

(出典) 富山県の地震概況 「令和6年(2024年)1月」(富山地方気象台)

2-2 高岡市の被害状況

(1) 人的被害

		人数
死者		2 人
負傷者	重傷	2 人
	軽傷	3 人

※死者 2 名は災害関連死

(2) 被災建築物の応急危険度判定の状況（令和 6 年 1 月 16 日（火） 調査終了）

調査済（緑）	要注意（黄）	危険（赤）	合計
422 件	466 件	178 件	1,066 件

(3) 建物被害

損害割合	住家	住家以外
全壊	0 件	
大規模半壊	33 件	
中規模半壊	78 件	
半壊	41 件	
準半壊	240 件	
一部損壊	5,098 件	619 件
合計	5,490 件	619 件

※住家以外には、空家、倉庫、納屋等を含む

(4) 公共インフラ被害

道路	30 路線
河川	護岸崩落 2 件
水道	83 件（配水管漏水 39 件、給水管漏水 29 件、空気弁等漏水 15 件）
下水道	33 件（管路 27 件【L=9.0km】、施設 6 件）
農道	1 路線
林道	2 路線

(5) 市所管公共施設

市庁舎	4 施設（本庁舎、市民病院、伏木消防署、伏木コミュニティセンター）
学校施設	17 校（その他軽微な損傷多数）
その他	42 施設（東洋通信スポーツセンター、伏木駅前トイレ、古城公園ほか）

3 本市の対応

3-1 災害対策本部の設置等

- ・ 災害対策本部会議 計 14 回開催

月日	時間	内 容	備 考
1/1(月)	16:30	災害対策本部開設	
1/2(火)	9:00	災害対策本部会議 (第 1 回)	
	13:00	災害対策本部会議 (第 2 回)	
	15:00	災害対策本部会議 (第 3 回)	
1/3(水)	9:00	災害対策本部会議 (第 4 回)	
	15:30	災害対策本部会議 (第 5 回)	
1/4(木)	9:30	災害対策本部会議 (第 6 回)	
	13:00	災害対策本部会議 (第 7 回)	
1/5(金)	9:00	災害対策本部会議 (第 8 回)	
	15:00	災害対策本部会議 (第 9 回)	
1/9(火)	9:00	災害対策本部会議 (第 10 回)	
	13:00	災害対策本部会議 (第 11 回)	
1/12(金)	16:30	災害対策本部会議 (第 12 回)	被災者支援策の公表
1/26(金)	16:30	災害対策本部会議 (第 13 回)	
2/1(木)	17:00	災害対策本部会議 (第 14 回)	被災者支援・復旧対策本部へ移行

3-2 避難場所の開設状況

(1) 避難場所開設

- ・ 避 難 所 市内全域指定避難場所のうち 86 か所を開設
- ・ 避難者数 延べ 5,843 人
- ・ 閉 鎖 1 月 26 日 12 時 00 分

(2) 自主避難所開設

- ・ 発令日時 1 月 3 日 16 時 00 分
- ・ 発令理由 夕方から明朝にかけての雨による土砂災害の危険性が高まっているため
- ・ 対象地区 五位山地区、西五位地区、赤丸地区、石堤地区、国吉地区、二上地区
守山地区、中田地区
- ・ 避 難 所 10 か所 (公民館 6 施設、小学校 2 施設、その他 2 施設)
- ・ 解 除 1 月 4 日 10 時 00 分
- ・ 避難者数 0 人

3-3 他自治体からの支援

(1) 人的支援（職員派遣）

① 富山県・富山県内自治体からの職員派遣

富山県、富山市、魚津市、黒部市、滑川市、砺波市、南砺市、入善町

② 災害時相互応援協定都市からの職員派遣

千葉県松戸市

③ 総務省「応急対策職員派遣制度」及び中長期の応援職員派遣制度に基づく職員派遣

広島県広島市、三重県四日市市、愛知県一宮市、愛知県豊橋市、福井県越前市、
岐阜県大垣市、岡山県岡山市

④ 環境省「災害廃棄物処理支援制度」及び広域連携計画に基づく職員派遣

茨城県土浦市、茨城県東海村、茨城県神栖市、埼玉県、埼玉県所沢市、埼玉県新座市、
栃木県上三川町、神奈川県横須賀市、神奈川県相模原市、神奈川県小田原市、
千葉県館山市、千葉県船橋市、山梨県甲府市、山梨県山梨市

(2) 物資支援

福井県越前市、石川県小松市、神奈川県大和市、岐阜県大垣市、愛知県一宮市、
岐阜県美濃市、岐阜県中津川市、宮城県多賀城市、神奈川県鎌倉市、
群馬県富岡市、新潟県三条市、愛知県みよし市

(3) 給水支援

大阪府泉佐野市、東京都、岐阜県美濃加茂市、埼玉県越谷・松伏水道企業団、
山形県南陽市、黒部市、大阪府交野市、長野県佐久水道企業団、山梨県甲府市、
茨城県龍ヶ崎市

（1月5日21時 高岡市内での応援給水終了）

(4) ふるさと納税業務支援（代理寄附）

神奈川県鎌倉市、鹿児島県阿久根市、福井県越前市、岐阜県中津川市
神奈川県大和市、青森県むつ市、宮城県多賀城市、千葉県松戸市、岐阜県美濃市
山形県酒田市、高知県須崎市

3-4 各部署の主な対応（令和7年3月24日時点）

- ・ 市内のパトロール
- ・ 被害状況の把握、緊急応急復旧
- ・ 応急給水所開設 5箇所
- ・ 土のう袋の配付 45,730袋
- ・ 災害ゴミ受入 6,956台（1月4日から受入れ開始）
- ・ ブロック塀等の撤去（無料回収）1,438件
（補助） 1,557件
- ・ り災調査の実施（1月4日から受付開始）
調査件数 5,490件（住家のみを計上）
- ・ 災害ボランティア（1月5日から活動開始）

活動人数 延べ 1,222 人、 延べ 162 件

- ・ 保健師による避難所の健康観察
- ・ 在宅避難者のローラー訪問（伏木、横田甲島、吉久）、
- ・ 保健師による応急住宅入居者への訪問活動

4 課題及び改善の方向性

本章では、「住民の避難行動」「避難所の開設・運営」「災害対策本部の設置・運営」「各課の災害対応」「被災者支援」の項目ごとに、高岡市連合自治会によるアンケートの意見、災害対応に従事した市職員による振り返り、富山県が実施した避難行動に係る人流データ調査及び県民アンケートの分析結果から、現状及び問題点を抽出し、課題の整理、改善策の方向性について検討を行った。

なお、改善の方向性に基づく具体的な取組については、この検証報告書の作成を待たず、取りかかるべきものから着手しており、未着手の取組についても、取組内容が固まったものから順次着手する。調査・研究が必要な避難者受付システムの導入等の時間を要する取組についても、準備が整い次第できるだけ早期に着手することを目指す。

4-1 住民の避難行動

(1) 現状及び問題点

①連合自治会アンケートの意見

- ・避難所が遠いことから避難所を増やしてほしい。
- ・連合自治会に対し、避難所は開いているかとの問い合わせが多くあった。
- ・避難所の開設状況が分からない。
- ・徒歩で避難する際、道が狭く混雑した。

②市職員による振り返り

- ・津波の到達が想定されない地域の住民も多数避難した。
- ・津波の指定緊急避難場所ではない施設に避難した住民が多くいたため、施設に負担がかかった。
- ・避難所になっていない施設にも避難される方がいた。

③人流データ調査

- ・車での避難が78.9%見受けられ、原則徒歩による避難が実践されていない。【図表8】
- ・高台へ避難される方が多い中、指定緊急避難場所ではない病院等への避難が確認された。

【図表9】

④県民アンケート（高岡市回答抽出）

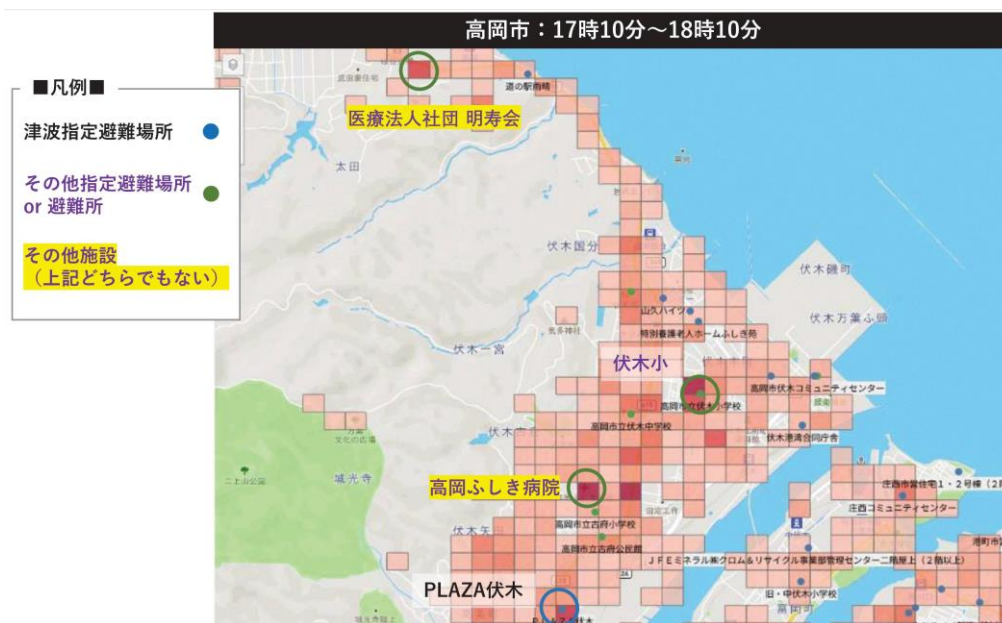
- ・自分の滞在場所が津波ハザードマップで避難が必要な地域かわからないと回答した方が30.1%と多い。【図表10】
- ・避難した理由について、「津波警報が出たから（津波がくると思ったから）」と回答した方が51.5%いる。【図表11】
- ・車で避難したと67.6%が回答、車で避難した理由として「車が一番早いと思ったから」と回答した方が67.4%、「車でないと遠くに避難できないと考えたから」と回答した方が52.2%いる。【図表12、13】
- ・避難先では、指定先に避難される方が36.8%と多い中、避難先として指定されていない近くの高台、高い建物へ避難したと回答した人が20.6%いる。【図表14】
- ・避難時に持ち出したものはスマートフォンや携帯電話、貴重品が上位であり、飲料水は44.1%、食料は35.3%、毛布は27.9%、非常用持出袋は25%であった。【図表15】

- ・大規模災害に全く関心がない、あまりないと回答した方が4.4%いる。【図表 16】
- ・ご自身の防災対策が進んでいない、どちらかと言えば進んでいないと回答した方が39.7%いる。【図表 17】
- ・地震前後の災害への備えを比較して、飲料水や食料、非常持ち出し袋、携帯・簡易トイレを準備している方は増えているが、家を耐震化している方は地震前が11.2%、地震後が10.4%と大きく変わっていない。【図表 18】
- ・地域における防災意識の変化について、「変化はない」との回答が47.4%、「あまり意識しなくなった」との回答が1.2%、「まったく意識しなくなった」との回答が0.4%ある。【図表 19】
- ・能登半島地震後にハザードマップを初めて見た方が約12.5%、見たことがない方が20.9%いる。【図表 20】

図表 8 避難所等への避難者に占める車利用者の割合

来訪時の車来訪比率			居住地別・車来訪比率				
	車比率	沿岸		市町村内	富山県内他市町	富山県外	沿岸
立山町	94.7%		南砺市	87%	88%	88%	
上市町	93.9%		朝日町	86%	100%	78%	●
朝日町	88.6%	●	立山町	86%	100%	100%	
魚津市	88.0%	●	黒部市	85%	89%	90%	●
舟橋村	87.5%		魚津市	85%	95%	89%	●
南砺市	87.2%		入善町	83%	95%	83%	●
黒部市	86.6%	●	富山市	82%	99%	84%	●
滑川市	86.5%	●	氷見市	82%	94%	87%	●
入善町	86.0%	●	滑川市	82%	95%	91%	●
氷見市	85.1%	●	舟橋村	78%	100%	100%	
富山市	84.4%	●	上市町	78%	100%	100%	
射水市	81.1%	●	射水市	77%	90%	79%	●
高岡市	78.9%	●	高岡市	73%	97%	74%	●
砺波市	78.6%		小矢部市	56%	100%	100%	
小矢部市	75.0%		砺波市	50%	100%	100%	

図表 9 時間帯別人流（発災前との差分：17 時台）拡大図



図表 10 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問9 津波ハザードマップで避難が必要な地域等に含まれていたか				
	合計(人)	含まれていた	含まれていなかった	分らない	無回答
高岡市全体	239人	23.0%	45.6%	30.1%	1.3%

図表 11 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問14 避難した理由									
	合計(人)	津波警報が出たから(津波がくると思ったから)	余震が怖かったから	自分がいた場所に被害が出て、その場に留まるのが危険だったから	家族や近所の人(周りの人)に促されたから	消防団員に促されたから	テレビやラジオで繰り返し避難が呼びかけられていたから	自宅で夜を過ごすのが怖かったから	夜間に避難するような事態を避けたかったから	周りが避難していたから
高岡市全体	101人	51.5%	44.6%	6.9%	17.8%	-	34.7%	6.9%	7.9%	9.9%

防災訓練で避難の練習をしていたから	災害がおきれば、いつでも避難すべきと考えていたから	水道等のライフラインが途絶したから	その他	無回答
3.0%	13.9%	1.0%	5.0%	5.9%

図表 12 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問16-1 避難時の移動手段					
	合計(人)	徒歩	車	自転車	その他	無回答
高岡市全体	68人	30.9%	67.6%	-	-	1.5%

図表 13 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問16-3 車で避難した理由												
	合計(人)	車が一番早いと思ったから	外にいたときに津波がきたら危ないと思ったから	病気や身体が不自由で車でないと避難できなかったから(家族含む)	子どもと一緒に避難しやすいから	車でないと遠くに避難できないと考えたから	地震発生当時、車に乗っていたから	荷物を運べると思ったから	万が一の場合に車中泊できると思ったから	津波や家の倒壊から車を守りたかったから	普段の移動が車だから	歩くのが面倒だから	その他
高岡市全体	46人	67.4%	2.2%	10.9%	30.4%	52.2%	6.5%	37.0%	45.7%	-	17.4%	2.2%	6.5%

図表 14 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問17-2 避難先								
	合計(人)	指定された建物(指定緊急避難場所や指定避難所)	指定された屋外の高台や公園、駐車場(指定緊急避難場所)	自主避難所(指定されていない公民館、届出避難所など)	避難先として指定されていない近くの高台、高い建物	親戚・知人宅	明確な目的地ではなく、高い方へ	その他	無回答
高岡市全体	68人	36.8%	1.5%	-	20.6%	8.8%	17.6%	8.8%	5.9%

図表 15 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問19 避難時に持ち出したもの									
	合計(人)	飲料水	食料	スマートフォンや携帯電話	貴重品	毛布	非常用持出袋(携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品など)	何も持ち出していない	その他	無回答
高岡市全体	68人	44.1%	35.3%	86.8%	57.4%	27.9%	25.0%	10.3%	8.8%	1.5%

図表 16 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問32 大規模災害に対する関心					
	合計（人）	非常に関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
高岡市全体	249人	55.4%	38.6%	4.0%	0.4%	1.6%

図表 17 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問33 自身の防災対策						
	合計（人）	じゅうぶん進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらともいえない	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答
高岡市全体	249人	0.8%	20.1%	38.6%	30.1%	9.6%	0.8%

図表 18 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問35 災害への備え										
	合計（人）	飲料水・食料を準備している	非常持ち出し袋（携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品など）を準備している	携帯・簡易トイレを準備している	風呂の水をためおきしている	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	消火器やバケツを準備している	非常用衣類・毛布などを準備している	公衆電話を利用するための小銭を準備している	家を耐震化している	家具や家電等を固定している
高岡市全体（地震前）	249人	38.2%	27.3%	14.9%	6.0%	18.1%	5.2%	3.6%	2.4%	11.2%	12.0%
（地震後）	249人	54.6%	41.8%	24.5%	4.8%	22.1%	6.8%	10.8%	6.0%	10.4%	15.7%

スマホの予備電池を準備している	避難場所や避難経路を決めている	家族の安否を確認する方法を決めている	地域の防災マップやハザードマップを掲示している	防災訓練に積極的に参加している	応急手当やAEDの使用方法を確認している	近所づきあい・親戚づきあいに積極的に取り組んでいる	被害が生じたときに必要な書類等を確認している	特に準備していることはない	その他	無回答
13.7%	14.1%	6.0%	4.8%	6.4%	4.4%	8.0%	1.6%	27.7%	1.2%	3.2%
19.3%	16.9%	13.3%	6.0%	5.2%	4.8%	10.4%	2.0%	16.9%	0.4%	3.6%

図表 19 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問39 地域における防災意識の変化						
	合計（人）	強く意識するようになった	少し意識するようになった	変化はない	あまり意識しなくなった	まったく意識しなくなった	無回答
高岡市全体	249人	12.5%	36.5%	47.4%	1.2%	0.4%	2.0%

図表 20 県民アンケート結果（高岡市回答抽出）

	問41 居住地のハザードマップの認知度				
	合計（人）	今回の地震が発生する前から見たことがある	今回の地震が発生した後に初めて見た	見たことがない	無回答
高岡市全体	249人	64.3%	12.5%	20.9%	2.4%

図表 8～20（提供）富山県 危機管理局 防災・危機管理課）

(2) 課題及び改善の方向性

(7) 避難行動

課題	改善の方向性
津波のリスク、津波からの適切な避難行動及び避難先の周知	・ 津波のリスクや避難のポイントを子どもから大人まで分かりやすくまとめ、出前講座などの機会やデジタルを含む媒体を通じて周知する。
自動車による避難の運用検討	・ 自動車による避難のあり方や運用について検討する。

(4) 避難場所

課題	改善の方向性
住民が安心して迅速に避難できる場所の確保	・ 沿岸部など避難場所の確保を検討する。 ・ 自治公民館や民間事業所など身近な施設の避難所利用を促進する。

(7) 避難情報等

課題	改善の方向性
市民（要配慮者を含む）への避難情報や避難場所開設情報等の迅速、確実な伝達	・ 避難情報等の伝達手段の多様化に努めるとともに、登録が必要な配信サービスについては市民に登録を積極的に呼びかける。 ・ SNS を活用したプッシュ型での避難情報やハザードマップ等の情報伝達について検討する。

(エ) 防災啓発

課題	改善の方向性
防災啓発の強化	・ 家庭内備蓄や非常持ち出し袋の準備、防災訓練の参加、住宅耐震化などソフト、ハード両面での災害への備え、ハザードマップの見方などについて、子どもから大人まで分かりやすくまとめ、出前講座などの機会やデジタルを含む媒体を通じて周知するなど、市民の防災意識の醸成を図る。

4-2 避難所の開設・運営

(1) 現状及び問題点

① 連合自治会アンケートの意見

- ・避難所の鍵が開いておらず、窓を割って入った。
- ・避難所運営要員（市職員）が避難所到達まで時間を要し、外で待つ避難者が多くいた。
- ・避難所運営にあたる市職員が足りない。
- ・市職員だけでは円滑な避難所運営は困難。地域と連携してほしい。
- ・小学校以外に備蓄がなかった。
- ・避難所の入口が分かりづらい。
- ・避難所運営要員、自主防災組織、避難者等の見分けがつかず、避難者が誰に相談すればよいかわからない。
- ・避難所が寒かった。床が冷たかった。防寒用の備蓄が不足している。
- ・プライバシーに対する配慮が不足している。

② 市職員による振り返り

- ・避難所運営要員が避難所へ向かうことができず開設できない避難所があった。
- ・避難所の開設が長期化し、避難所運営要員が2交代で長時間勤務することとなった。
- ・避難所運営要員（特に女性）が一人の場合に、夜間の避難所運営に不安を感じるがあった。
- ・避難所運営要員の間で円滑に連絡を取ることができなかった。
- ・避難所運営要員が避難所の運営方法や業務内容を理解していなかった。
- ・避難所運営要員が備蓄物資の保管場所を認識していなかった。備蓄品のリストに掲載されたものがどれを指すのか分からなかった。
- ・配慮が必要な避難者の申し送りが上手く伝わらなかった（避難所運営要員の申し送りが徹底されていなかった）。
- ・避難所の施設管理者の役割が十分周知されておらず、避難所の開設（解錠）が遅れるケースがあった。
- ・拠点避難所（小学校・旧小学校）の備蓄倉庫の鍵を施設管理者が管理しており、施設管理者の到着が遅れたため、鍵を開けることができなかった。
- ・避難所の運営は、避難者（自主防災組織、自治会等）、施設管理者、市職員が協力して行うこととなっているが、自主防災組織、自治会、防災士の協力を得られたところが少なかった。
- ・拠点避難所（小学校・旧小学校）から他の避難所へ備蓄物資を運搬する必要があったが、避難所運営要員は避難所運営があるため迅速な対応が困難であった。
- ・多数の方が避難所へ押し寄せる中、避難者名簿の記入項目が多く、受付名簿に記入されない方もおり、避難者数を把握できなかった。
- ・避難者の名簿や、健康上配慮が必要な方の情報を早くから共有できればよかった。
- ・テレビ、ラジオがなく、避難所内で情報を得ることができなかった。
- ・拡声器やホワイトボードがなく、避難所内の情報周知に苦慮した。
- ・女性に対する配慮が不足していた。
- ・避難者が自ら健康管理するための資機材や物品が足りなかった。ルールもなかった。

(2) 課題及び改善の方向性

(ア) 避難所の解錠

課題	改善の方向性
避難所の迅速な解錠	・ローテーション制の導入など、担当の避難所運営要員が不在の場合でも他の職員が対応可能な体制を整える。 ・避難所運営要員及び施設管理者が到着していない場合でも避難所（市所管施設）の鍵を入手可能な設備を導入する。 ・自主防災組織等が主体的に避難所を開錠・開設可能な体制を整える。

(イ) 避難所の開設・運営体制

課題	改善の方向性
避難所運営要員の確保、開設・運営に対する理解向上	・ローテーション制の導入など、担当の避難所運営要員が不在の場合や避難所の開設が長期化した場合、複数人での運営が必要な場合も柔軟に対応可能な体制を整える。 ・グループチャットの活用など避難所運営要員間で円滑に連絡を取れる体制を整える。 ・避難所の開設・運営方法の周知や現地確認等を通じて、避難所運営要員の避難所の開設・運営に対する理解向上を図る。
避難所運営に対する施設管理者の協力促進	・避難所施設や備蓄庫の開錠、施設内の部屋や資機材の提供など、開設・運営にあたって施設管理者に協力いただきたい事項について改めて依頼、周知する。
自主防災組織、自治会等主体の避難所運営の体制づくり	・自主防災組織等が主体的に避難所を開錠・開設・運営可能な体制を整える。【再掲】 ・防災士のスキルアップを図り、防災士が自主防災組織等の避難所運営をサポートできる体制を整える。

(ウ) 避難所の環境

課題	改善の方向性
初動時の備蓄の確保	・拠点避難所（小学校・旧小学校）等から他の避難所まで備蓄が運搬されるまでの措置として、公民館や山間部等の避難所に初動対応に必要な備蓄品を備える。
避難者の受入・受付の見直し	・避難者が一目で避難所の入口を認識できるような対策を講じる。 ・避難者名簿について見直しを行うとともに、デジタルを活用した避難者受付システムの導入について調査・研究する。

避難者の相談環境の整備	・避難所運営要員、自主防災組織、避難者等の見分けが付くようにするなど、避難者が相談しやすい環境を整える。
避難者への情報提供体制の強化	・情報提供用の備品を配備するなど、避難者に対する情報提供体制の強化を図る。
避難所の生活環境の整備	・衛生的なトイレやプライバシー、健康的な室温の確保など、避難所の生活環境の改善を図る。
避難所の健康・衛生管理	・体温計等の備品を配備するなど避難者が自ら健康管理できる環境を整える。 ・消毒液の設置など感染症の予防に努める。 ・定期的な清掃や換気のルールを設けるなど、衛生的な環境の確保に努める。

4-3 災害対策本部の設置・運営

(1) 現状及び問題点

①市職員による振り返り

- ・元日の発災であったことに加え、本部職員に参集対象や参集基準が十分認識されておらず、招集の連絡に手間取り、職員参集に時間を要した。
- ・各部局の幹部職員が対策本部に常駐しており、各部局内の指揮系統や円滑な業務遂行に支障を来した。
- ・本部体制が長期化する中、事務局職員の交代要員が確保されておらず、長時間勤務することとなった。
- ・本部が狭く、指示や会議の声が聞き取りづらい状況であった。
- ・事務局職員が各班の役割、業務内容を十分理解していなかった。
- ・各班が使用する書類の様式が定まっていなかった。
- ・引継ぎが適切に行われないケースがあった。
- ・各地域の被害情報の収集方法を定めておらず把握に時間を要した。
- ・市民やパトロール職員等から寄せられる情報の取捨選択、整理が不十分であった。
- ・本部内や各部局、避難所運営要員との被害状況や避難所開設状況の共有が不十分であった。
- ・ホワイトボードに記載された情報でどれが最新のものか分からなかった。
- ・ホワイトボードでは情報が増えると見えにくい。
- ・電話応対に関して個々人で対応が異なるケースがあった。
- ・市民等からの電話と避難所からの電話が混在していたため、避難所運営要員から本部と連絡が取りにくいとの声があった。
- ・すぐに連絡の付かない災害時応援協定締結団体等があり、迅速な応援体制がとれなかった。
- ・市職員が直接対応する場合の支援物資の受入・配送拠点が事前に決まっていなかったことや、配送体制が確保されていなかったことから、避難所への物資供給に時間を要した。

(7) 初動体制

課題	改善の方向性
参集可否の速やかな確認	・本部職員に対し、職員参集メールを使用した参集システムについて再周知する。
参集の徹底	・本部職員に対し、職員参集ポケットマニュアルの携帯を義務付ける。

(4) 人員配置

課題	改善の方向性
部局の業務に支障のない本部体制の見直し	・本部連絡員や事務局職員の対象職位の見直しについて検討する。
本部の開設長期化に備えた体制確保	・ローテーション制の導入など、特定職員に負担をかけずに長期間本部を開設可能な体制を検討する。

(5) 運営体制

課題	改善の方向性
本部スペースの確保	・本部会議の実施場所の変更を検討するなど本部スペースを確保する。
各班の役割、業務内容の周知	・各班の役割及び業務内容をまとめ、職員に周知する。 ・本部運営訓練に事務局職員も参加するなど業務内容等に対する理解を深める。
書類様式の統一	・本部や各班で使用する書類の様式を統一する。
各地域の被害状況の把握	・各連合自治会の協力により地域の被害状況を把握する体制を構築する。
情報の適切な取捨選択、整理及び共有	・電話等で収集した情報を情報収集班で取捨選択、整理した上で共有できる体制を検討する。 ・災害情報システムを活用し、被害状況や避難所の開設状況等の情報を整理し、本部及び各部局で共有する。 ・ホワイトボードについては、一時的な情報の記載に使用する、記載日時を明記するなど使用ルールを徹底する。
電話対応の統一	・Q&Aの作成など、よくある問い合わせについて対応を統一する。
避難所との連絡の確保	・市民等からの電話回線と分けるなど避難所と円滑に連絡が取れるようにする。
災害時応援協定締結団体等との連絡の確保	・災害時応援協定締結団体と、休日、夜間でも確実に連絡の取れる連絡先を共有する。 ・災害発生時の対応内容について定期的に依頼、周知する。
支援物資の受入・配送拠点の選定	・市職員が物資を受入、配送する場合の物資受入・配送拠点の候補場所について協議し、あらかじめ選定する。

大規模な物資の受入・配送体制の確保	・民間運送事業者との協定締結など大規模な物資の受入、配送が可能な体制を確保する。
-------------------	--

4-4 各課の災害対応

(1) 現状及び問題点

①市職員による振り返り

- ・所属職員と連絡が付かず安否確認に時間を要した。
- ・所属職員に参集対象や参集基準が十分伝わっておらず、招集の連絡に手間取り、参集が遅れた所属職員がいた。
- ・応急対策の業務量が想定よりも膨大であったため、業務遂行に時間を要した。通常業務の出入が不足した。急遽応援職員を依頼した。
- ・応急対策業務が膨大にもかかわらず、避難所運営の動員と重複したため人手が不足した。
- ・応急対策業務に関して、マニュアルや引継ぎ不足、担当者に相談できる体制が整っていなかったことで、担当外の職員や庁内外の応援職員がスムーズに業務を行うことができなかった。
- ・応援職員の受入調整や執務スペース及び備品の確保、業務手順の共有など受援に手間取った。
- ・避難所での被災者支援や応急対策業務に必要な資機材、備品、車両が不足したり、確保に時間を要し、業務遂行に支障があった。
- ・担当課の職員が関係団体との災害時応援協定締結を認識しておらず応援要請に時間を要した。
- ・関係課や地域、関係団体との連携が不足し、応急対策業務が円滑に遂行できなかった。
- ・電話等を利用し児童生徒の安否確認を行ったが時間を要した。

(7) 初動体制

課題	改善の方向性
安否確認の迅速な実施	・グループチャットの活用など各所属で安否確認の手法をあらかじめ定めておく。
参集の徹底	・各所属で参集対象者や参集基準について再周知する。 ・職員に対し、職員参集ポケットマニュアルの携帯を義務付ける。【再掲】

(4) 業務遂行体制

課題	改善の方向性
応急対策業務の人員の確保	・応急対策業務の業務量を適切に把握し、高岡市業務継続計画及び各課災害対応マニュアルの内容並びに必要な人員数について見直しを行う。 ・応急対策業務の人員が不足している場合は、部局内外の連携など人員確保策を検討する。 ・応急対策業務を考慮し、避難所運営要員の割り当ての見直しを検討する。

応急対策業務のマニュアル化	・担当職員への相談体制を含めて応急対策業務をマニュアル化し、担当外の職員や庁内外の応援職員が円滑に業務を実行可能な体制を整える。
受援体制の整備	・高岡市災害時受援計画を職員に周知するとともに、平常時から受援の流れや執務スペース等の受け入れ環境、応援を依頼する業務の内容等を確認するなど受援体制を整えておく。
応急対策業務に必要な備品等の確保	・応急対策業務に必要な備品等を把握し、あらかじめ確保しておく。

(ウ) 外部機関等との連携・協力

課題	改善の方向性
災害時相互応援協定締結に対する職員の理解向上	・庁内において災害時相互応援協定の締結状況や内容を共有する。
関係課や関係機関との連携強化	・各所属で災害時に連携が必要となる関係課や外部機関と日頃から情報共有や連携内容の確認を行うなど連携体制を強化する。

(エ) その他

課題	改善の方向性
児童生徒の迅速な安否確認	・インターネットを活用し、迅速に児童生徒の安否確認が可能な体制を整備する。
各課の個別課題	・各課において、事前に課題ごとの対応策を検討する。

4-5 被災者支援

(1) 現状及び問題点

① 連合自治会アンケートの意見

- ・住民から高齢者の避難を手伝ってほしいとの声があった。
- ・避難所が2階のため高齢者の避難が困難。

② 市職員による振り返り

- ・各部局の被災者情報の集約、共有に時間を要し、被災者支援を迅速に行えなかった。
- ・支援の申請書類の一部に、自己の情報提供の同意を確認できないものがあり、対応に時間を要するケースがあった。
- ・（自課の業務以外の）被災者支援情報や相談窓口についての情報を提供できなかった。
- ・給水所開設等の被災者支援に関する情報が避難所まで届いておらず、避難所運営要員が問い合わせに答えられないことがあった。
- ・避難所へ来ることができない方や在宅避難者の状況を十分に把握できなかった。
- ・要配慮者（高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、外国籍市民等）の状況把握、避難誘導等を

円滑に行うことができなかった。

- ・避難所運営要員が福祉避難所を知らなかったため、移送が必要な要配慮者がいても、福祉避難所の開設につながらなかった。
- ・避難所での業務を優先し実施したため、在宅の方への対応が発災から1か月後になった。

(7) 被災者情報の把握・共有

課題	改善の方向性
被災者情報の一元化、共有	・システムの活用により、支援状況を含めた被災者に関する情報を庁内で一元化、共有する。
在宅避難者の状況把握	・自主防災組織、自治会等の協力を得るなど在宅避難者の状況把握に努める。

(4) 支援情報の共有・提供

課題	改善の方向性
被災者支援に関する情報の共有、迅速な提供	・被災者支援に関する情報を分かりやすくまとめ、庁内や避難所と共有するとともに、市ホームページ、各種 SNS 等で迅速に提供する。

(5) 要配慮者の支援

課題	改善の方向性
個別避難計画の作成促進	・要配慮者の個別避難計画作成を進め、本人や家族、支援関係者が平常時から避難先や避難方法を共有しておく。 ・個別避難計画をもとに、避難場所や福祉避難所に避難する要配慮者の人数の把握や、福祉避難所等で必要な物資を調達する体制を整備する。
要配慮者の避難誘導	・自主防災組織へ、日頃から高齢者等の要配慮者の状況を把握し、災害時に避難を支援するよう働き掛ける。 ・ICTツールの活用により、発災後速やかに福祉避難所の被害状況や開設可否、受入可能人数を把握できるようにし、要配慮者の受入要請に対応可能な体制を整える。 ・福祉避難所設置・運営マニュアルの周知や、要配慮者の移送、受入訓練等を通じて、市職員や福祉避難所職員の要配慮者の避難の流れや対応について理解向上を図る。
外国籍市民等に対する避難所での対応体制の強化	・市職員の外国語話者対応力向上や災害時外国人支援ボランティア育成を通じて、外国籍市民等の支援体制強化を図る。